

高円宮牌 2012ホッケー日本リーグ【 女子 】 第 4 節 第 8 日

開催日時 9 月 9 日 ( 日 ) 会場 立命館大学柘野ホッケー場 天候 晴れ

【全試合結果】

第1試合 ----- 12:00	コカ・コーラウエストレッドスパークス	<b>9</b>	$\left( \begin{array}{l} 6 - 0 \\ 3 - 0 \end{array} \right)$	<b>0</b>	天理大学ベアーズ
第2試合 ----- 14:00	立命館大学ホリーズ	<b>0</b>	$\left( \begin{array}{l} 0 - 0 \\ 0 - 4 \end{array} \right)$	<b>4</b>	南都銀行

【各試合の結果・詳細】

第1試合

コカ・コーラウエストレッドスパークス 9  $\left( \begin{array}{cc} 6 & - & 0 \\ 3 & - & 0 \end{array} \right)$  0 天理大学ベアーズ

勝点 21
勝点 1  
7 勝 0 分 1 敗
0 勝 1 分 7 敗

<得点>

コカコーラ : 6分小野、9分三橋、12分李、17分新井、27分新井、35分金、43分加藤、50分金、69分小野  
 天理大学 :

<戦評>

日射しの照りつける猛暑の中、天理大学のセンターパスで試合が開始された。前半早々1分に天理はPCを取得するも決めきれない。6分、逆にCCWRが左サイドでの細かいパスワークからサークル内に侵入し、#7三橋のセンタリングから#8小野が決め、先制点を挙げる。続く9分、CCWRは、左23メートルラインからのセンタリングのタッチを天理キーパーがセーブするも、そのリバウンドを#7三橋が押し込み追加点を挙げる。攻撃の手を緩めないCCWRは、12分にも、PCから加点、その後も2本のフィールドゴールとPSを決め、前半で6-0と大きくリードする。後半に入ってもCCWRのペースで試合が進み、43分、50分、69分に追加点を挙げる。一矢報いたい天理であったが、なかなか攻撃の糸口を掴めず、決定的なチャンスを作ることができないまま試合が終了。9-0の大差でCCWRの勝利となった。

テクニカルオフィサー	安枝 和子	アンパイア	山田 恵美
ジャッジ	原野 裕子		根岸 郁美

第2試合

立命館大学ホリーズ 0  $\left( \begin{array}{cc} 0 & - & 0 \\ 0 & - & 4 \end{array} \right)$  4 南都銀行

勝点 4
勝点 14  
1 勝 1 分 6 敗
4 勝 2 分 2 敗

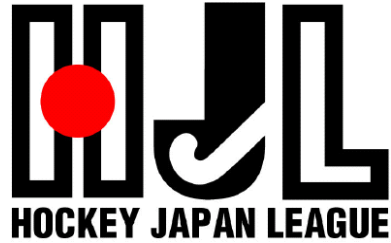
<得点>

立命館大学 :  
 南都銀行 : 46分佐々木、48分前田、49分大塚、52分大塚

<戦評>

立命館のセンターパスで試合が開始された。開始早々、南都銀行はPCを得るが立命の堅い守備に阻まれる。南都はその後も再三のチャンスを作るが、立命守備陣の好守もあり得点を挙げる事が出来ない。両チームスコアレスのまま試合は後半へ。後半に入っても南都のペースが続く。試合が動いたのは46分、南都はPCから#16佐々木がこぼれ球を押し込み先制点を挙げる。これで勢いをつけた南都は、48分にもPCから#19前田が追加点を挙げる。その後も49分、52分にも#10大塚が2得点を決め、わずか6分で4得点を奪いゲームの行方を決定付けた。何とか1点でも返したい立命であったが、南都の堅い守備によって決定的なチャンスを作れない。そのまま4-0で試合が終了した。

テクニカルオフィサー	安枝 和子	アンパイア	壽山 由樹
ジャッジ	原野 裕子		竹内 高広



高円宮杯 2012ホッケー日本リーグ【女子】第4節 第2日

開催日時 9月9日(土) 会場 日光市ホッケー場 天候 晴れ

【全試合結果】

第1試合 12:00	ソニーHC BRAVIA Ladies	5	$\begin{pmatrix} 3 - 1 \\ 2 - 0 \end{pmatrix}$	1	東海学院大学
第2試合 14:00	グラクソ・スミスクライン	2	$\begin{pmatrix} 0 - 0 \\ 2 - 0 \end{pmatrix}$	0	山梨学院CROWNING GLORIES

【各試合の結果・詳細】

第1試合

ソニーHC BRAVIA Ladies 5  $\begin{pmatrix} 3 - 1 \\ 2 - 0 \end{pmatrix}$  1 東海学院大学

勝点 22  
7 勝 1 分 0 敗

勝点 15  
5 勝 0 分 3 敗

<得点>

SONY : 12分村上、23分山本、28分金、58分中島、66分村上

東海学院 : 15分松村

<戦評>

東海学院大学のセンターパスで始まった一戦は、ソニーHC BRAVIA Ladiesがやや攻勢に進め、12分SONY FB#4村上がPCから左上にシュートを決め先制した。東海学院も15分攻守からのカウンターで反撃し、パスをつなぎFB#15浅海の右からのセンターリングをFW#17松村が合わせ同点とした。しかし、SONYは23分相手パスミスからチャンスをつかみPSを得るとMF#6山本が左下に決め2-1と勝ち越すと、28分には左からのパスをFW#9金がクリーンシュートを決め3-1で前半を折り返した。

後半に入っても、主導権を握るSONYは押し気味に試合を進め、58分にPCからFW#10中島がタッチシュートを、66分にもPCからFB#4村上がプッシュシュートを決め突き放した。東海学院もカウンターから反撃を試みるも決め手を欠き、得点を奪えず5-1で試合が終了した。

テクニカルオフィサー	杉原 広	アンパイア	相馬 知恵子
ジャッジ	関根 由美子		野澤 茂

第2試合

グラクソ・スミスクライン 2  $\begin{pmatrix} 0 - 0 \\ 2 - 0 \end{pmatrix}$  0 山梨学院CROWNING GLORIES

勝点 9  
3 勝 0 分 5 敗

勝点 6  
1 勝 3 分 4 敗

<得点>

グラクソ : 48分川崎、66分大石

山梨学院 :

<戦評>

地元の声援を受け勝ち点の上積みを図る、グラクソ・スミスクラインと山梨学院CROWNING GLORIESの一戦である。やや優勢に試合を進める山梨学院は19分、31分にPCを得るが、グラクソの粘り強い守りで攻めきれない。グラクソもカウンターからパスを繋いで攻め込むが、ラストパスが安定をかきPCを取れず両チーム無得点で前半を折り返した。

後半に入っても一進一退の攻防が続く中先制したのはグラクソだった。48分相手サークル内の混戦から得たPCをFB#3川崎がヒットシュートを決めた。直後の山梨学院のPCのピンチ2本をしのぐと、グラクソは66分PCからFB#7大石がタッチシュートを決めて2-0と突き放した。山梨学院も終了間際にPCを得るが決められず2-0のまま試合が終了した。

テクニカルオフィサー	杉原 広	アンパイア	我妻 順子
ジャッジ	関根 由美子		水谷 吉男